



## FACT FILE

協会創立▶1926年  
エンブレム▶桜  
チームネーム▶Brave Blossoms プレイ  
ブ・ブロッサムズ  
ウェブサイト▶www.rugby-japan.jp

f /Rugby.Japan  
t @JRFUMedia  
@JRFURugby (ENG)

## RWC RESULTS

1987 プール戦敗退  
1991 プール戦敗退  
1995 プール戦敗退  
1999 プール戦敗退  
2003 プール戦敗退  
2007 プール戦敗退  
2011 プール戦敗退  
2015 プール戦敗退

## HEAD COACH

ジェイミー・ジョセフ  
Jamie Joseph



1969年11月21日生まれ。ニュージーランド代表のバックローとして活躍し20キャップ。日本代表でも9キャップを獲得している。1990年代半ばから日本のチームで8シーズンプレーし、その後ニュージーランドへ帰国。ウェリントン州代表やマオリ代表、スーパーラグビー、ハイランダーズの指揮を執った後、2016年秋から現職に就いた。

その後ニュージーランドへ帰国。ウェリントン州代表やマオリ代表、スーパーラグビー、ハイランダーズの指揮を執った後、2016年秋から現職に就いた。

## HISTORY

### 歴史

胸に抱いた桜のエンブレムには、自分たちよりはるかに大きな体躯の外国チームと勇敢に戦ってきた先人たちの気持ちが宿っている。1968年に敵地でオールブラックス・ジュニア(当時A代表に相当)に勝って世界を驚かせたり、1989年に来日したスコットランド代表を破った試合は、その代表的な80分だ。しかし、長い歴史の中でラグビー強豪チームからの白星は僅か。それゆえ「チェリーブロッサムズ」の呼び名は海外からは、ひ弱なチームの揶揄として使われることも少なくなかった。

そんな時代が終わったのは2003年だった。

同年開催されたラグビーワールドカップの初戦でスコットランド代表を苦しめた戦いは、大会中のホームタウンとなった豪州・タウンズビルの地元紙に「プレイブ・ブロッサムズ」と呼ばれ、以後、その呼び名こそが自分たちのスタイルを貫く日本代表にふさわしいニックネームとなった。

## ROAD TO RWC 2019

### 近年の足どり

ラグビーワールドカップを振り返っても、日本代表は近年誇りを取り戻した。1987年の第1回大会からすべての大会に出場してきたものの、2011年の大会までに手にした勝利は1991年大会でジンバブエ代表から挙げた1勝のみ(7大会で1勝2分け21敗だった)。そんなチームが覚醒し、世界を驚かせたのが2015年の大会だった。

エディー・ジョーンズヘッドコーチ率いる日本代表は、初戦でラグビーワールドカップで2度優勝している南アフリカ代表を破り、世界を仰天させたのだ。その歴史的勝利で自信をつけたチームはスコットランド代表には敗れたものの、3勝1敗の好成績を残した。3勝して決勝トーナメントに進めなかったのは史上初めて。プレイブ・ブロッサムズは悲願の8強進出こそ逃したけれど、世界から称賛されるチームとなったのは間違いなかった。

同大会で上位12チームに入ったことにより、予選なしで次大会への出場権を得たのは初めてだ。

## STYLE

### 戦力とプレースタイル

その躍進で手にしたもので大きかったのは、選手たちの内面に芽生えた自信だった。世界とだって戦える。そのマインドセットで、ラグビーワールドカップ後の日本代表は堂々とした戦いを続けている。強国からの勝利はないが2016年にはスコットランド代表やウェールズ代表に迫った。

2016年からスーパーラグビーに参入したのも強化にとって追い風となっている。

サンウルブズを結成し、多くの日本代表選手たちが世界と戦うことが日常となった。2017年度からは4シーズンに渡ってニュージーランドのハイランダーズでプレーしてきたSH田中史朗も加わった。2019年に向けて成長のピッチを早めたいところだ。

2016年秋からはハイランダーズでスーパーラグビーを頂点に導いたこともあるジェイミー・ジョセフヘッドコーチが日本代表の指揮を執っている。進んでいく道に迷いはない。

## PLAYERS TO WATCH

FL/NO8  
リーチ マイケル  
Leitch Michael

ニュージーランドのクライストチャーチで生まれ、育ち、札幌山の手高校への留学で日本の生活を始めた。RWC2015後に主将を外れるも、2017年秋から再び主将としてチームを牽引することに。2015年から3シーズン、スーパーラグビーのチーフスでも活躍した。



CTB  
立川 理道  
Harumichi Tatekawa

2015年のラグビーワールドカップではインサイドCTBとしてチームに勢いをもたらす活躍。天理中学校、天理高校、天理大学と、天理ラグビーの申し子だ。



長く、速いパス、そして前へ出る仕掛けと、質の高い選手。2016年秋は堀江と日本代表共同主将を務めた。

## RWC2019 同プール対戦チームとの過去大会対戦成績

### v アイルランド代表

● 16 - 32 RWC1991 (POOL2)

● 28 - 50 RWC1995 (POOLC)

### v スコットランド代表

● 9 - 47 RWC1991 (POOL2)

● 11 - 32 RWC2003 (POOLB)

● 10 - 45 RWC2015 (POOLB)

### v ヨーロッパ地区1

-

### v ヨーロッパ・オセアニアPO

-